

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 大分商業 高等学校	
学校教育目標	時代の変化やニーズを踏まえた先進的な商業教育を通して、新たな価値を創造し、持続可能な地域や社会の創り手となるビジネスリーダーとしての必要な力を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 校長のリーダーシップの下、学校教育目標及び重点目標が的確に定められ、焦点化が図られている。 目標達成に向けた取組が分掌主任を中心に組織的に進められている点は高く評価できる。 「私のみらいプロジェクト+α」が効果を発揮しており、更なる発展・継続を期待する。 ※「私のみらいプロジェクト+α」:逆算の思考によるキャリア教育 	<ul style="list-style-type: none"> 分掌組織の見直しを図り、業務の精選・統合を進めることで、更なる組織としての学校運営を推進する。 分掌の再構成により一人1分掌で取り組むことで、働き方改革を推進する。 「私のみらいプロジェクト+α」の取組について、社会人基礎力や人間力の向上を図るため、体験的な学習活動の場面(社会と触れる機会)をこれまで以上に設定し、即戦力としての資質の涵養を図る。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C Aサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 良い。 重点目標を達成するための取組指標は適切に設定されている。 具体的な取組を実施するだけでなく、取組内容の質的検証が必要である。 アンケートの記述内容を定性的に分析する等、PDCAサイクルのCA段階を更に充実させることが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価に関して、生徒アンケート・授業改善アンケート・保護者アンケートを定点調査として実施し、そのデータの組織による分析により、改善点を明確にすることで、PDCAのCA段階の強化を図る。 様々な取組の実施後の検証について組織的に取り組む。改善点・推進する点などを踏まえ次回の取組へフィードバックする。 学校目標を達成するために、重点目標、重点的取組など明確で具体的な設定を行い、測定可能な指標を設けることで、組織として取組の強化を図る。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> 情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) 生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 学校ホームページをはじめ各種メディアを駆使し、効果的な情報発信が組織的に行われている。 保護者向けアンケートの実施等、学校への要望や満足度を広く的確に把握しようとする取組が行われている。 学校行事やその活動の意味、生徒の声を掲載する等、内容を更に工夫した広報活動の充実を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページによる宣伝効果の強化を図るため、単なるイベントの紹介等ではなく、実際に取り組んだ生徒の感想や今後に向けた課題など、生徒の視点でのコメントを盛り込み中学生や保護者へのPR効果の向上を図る。 今年度より保護者アンケートを実施し、学校満足度の向上に向けて取り組んでいるが、更に記述式による細かな意見の吸い上げを行い、具体的な改善を推進することで満足度の向上を図る。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> 学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 I C T を活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 商業高校の特性に合った産業社会との繋がりを意識したカリキュラムや指導内容が設定され、機能している。 授業も良く準備されており、生徒の授業中の様子からも授業改善の取組成果が伺えた。 ICT機器の活用については、生徒の満足度を高める効果的な活用になるよう一層の工夫が必要である。 授業アンケートの実施と分析により、生徒のニーズに応えた授業改善への取組が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践的なカリキュラムに加え、プロジェクトベースの学習を取り入れることで、問題解決能力やコミュニケーション能力の育成の強化を図る。 授業において実際のビジネス課題をテーマとして更に多く設定することで、実学としての学びを推進する。 デジタルツールを活用した授業(オンラインプラットフォームやビジネスシミュレーションソフトを使用)で、生徒に最新のビジネス環境に触れる機会を設定することで、将来のビジネスシーンをイメージさせ社会の変化に柔軟に対応する力を醸成する。 個別最適な学びを提供するツールとして一人一台端末の活用を推進する。アプリやAIなどの学習教材を活用し習熟の段階に応じた学びを提供する。
	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 いじめや不登校対策については、表面的には問題はなく、落ち着いた学校に見える。 スクールカウンセラーの面談体制を整える等、学校と保護者、関係者が連携して問題解決に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する早期発見・対応を組織として取り組む。職員研修の実施、情報共有、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関への接続など、担任や学年だけでなく組織として取り組む体制の確立を図る。 生徒の異変にいち早く気が付くための拡大学年会議での情報共有や、いじめに関する生徒アンケートの定期的な調査の強化を図ることで迅速な対応を推進する。
安全・安心な教育環境	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> 良い。 校舎や設備、備品の状況は改善の余地がある。 安心安全な学校生活のためにも、校内の環境整備を進めていただきたい。 老朽化した不要な施設が存在する等、安全管理上の妨げになっている。 予算の関係もあるが、優先順位が上位のものから早急に改善することが求められる。 危機管理マニュアルについては具体的に整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルや警備防災計画など、マニュアルだけでなく、定期的な訓練や職員研修などの実施により、体制の強化を図る。 大規模改修など、生徒の安全を確保するための改修・環境整備について、計画的に行う。
	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> 会議・分掌業務、学校行事の精選・見直しを図られているか。 組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 情報共有の効率化や校務情報化の推進など、I C T の効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議の持ち方や回数等の改善は見られるが、学校行事の精選など、まだできることは多い。 管理職が主体となり、廃止も含めて業務の見直しを更に進めることが望まれる。 月1回の定時退庁日の設定により意識改革は進んでいる。学校全体で取組状況の共有が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選・統合を図り、落ち着いた授業に取り組める環境を整備する。 定期的な会議や取組など、その必要性を見直し、前年踏襲とならないように改善を推進する。 超過勤務の縮減や完全ノー残業デーの徹底、部活動のガイドラインの周知など、職員の意識改革を図るための効果的な取組を、衛生管理委員会や産業医、外部期間等と連携し推進する。
信頼される学校づくり	学校課題の解決に向けた取組等	○業務の効率化による生徒と向き合う時間の確保ができているか。 ○教職員の意欲増進に向けた休養時間の確保のための工夫ができているか。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 分掌レベルで業務の効率化や行事精選の検討が進められている。 学校に対する生徒の満足度は非常に高く、総じて良い学校となっている。 教職員の士気を高めるためにも、管理職主導で働きやすい学校づくりへの取組の推進を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場環境づくりのため、管理職が職員の意見などを集約し、できる改善から環境整備に努める。 生徒の自己肯定感を向上させるため、達成感を感じる学習活動やプログラムを設定し更なる学校満足度の向上を図る。 業務(行事)の精選などにより、多様な生徒へ対応するための、生徒と話(面談)をする時間を確保する。
	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップの下、教職員が一体となり学校改善に取り組む姿勢が見られる。生徒の学校生活に対する評価・満足度も高く、当校で学ぶ意義が十分に浸透していると感じる。 県内唯一の商業単科校としての特性を生かしたカリキュラムにより、学科の特色を生かした産業人材育成が行われている点は高く評価できる。 ICT機器を効果的に活用した授業内容や指導方法の研究・研修を進め、更に質の高い学びが提供されることを期待する。 「地域の課題を発見・解決するアイデアソン」や「金融経済教育」等の特色ある取組は生徒のニーズと満足度が高いため、教員・生徒間のコミュニケーションを十分に取りながら、継続・拡充させることを希望する。 働き方改革の実効性の高い具体的な取組を進めることで、管理職、教職員、生徒が一体となったより良い学校となることを期待する。 		
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> 商業専門校として、地域社会に根ざした教育を通じて、次世代のビジネスリーダーを育成することを目指す。教育の質を向上させるためのリーダーシップを発揮し、特色ある授業を提供することを念頭において取り組む。 学校の特色ある授業は、実践的なスキルを重視し、ビジネスの現場で必要とされる知識や技術を身に付けるために、企業との連携を強化し、インターンシップやプロジェクトベースの学習を積極的に取り入れていく。これにより生徒は実際のビジネス環境を体験し、即戦力として活躍できる力を身に付ける。 また、地域の課題解決にも力を入れ、地域のニーズを理解し、地域貢献活動を通じて、生徒が社会に貢献できる機会を提供する。地域の企業や団体と連携し、実際のビジネス課題に取り組むことで、生徒は問題解決能力を高めることができる。生徒が多様な働き方を理解し、柔軟な思考を持つことができるよう、最新のビジネス環境に対応した教育を行うことで、激しく変化する社会に適応し、自らのキャリアを切り拓く力を身に付けることができる。 教育を通じて地域社会に貢献し、生徒一人ひとりが自信を持って未来に挑戦できるよう、引き続き組織としての改善を推進し、学校目標達成に向けて取り組む。 			